

放送ビジネスの新たな可能性を追求

「日テレNEWS24」

～ネットからゲーム機までマルチに展開!～



©NNN

日本テレビが制作するニュース専門チャンネル「日テレNEWS24」のマルチメディア化が進んでいる。日テレ公式サイトや地上波データ放送(ワンセグ含む)など自社内でのマルチユース活用に加え、インターネットポータルサイトや携帯電話サイト、駅構内のモニター、ゲーム機などへの配信もスタート。24時間、365日体制の最新ニュースというコンテンツの魅力とあらゆる配信先に対応できるように構築されたシステムにより、放送ビジネスの新たな可能性を追求している。

(レポート:高瀬徹朗・本誌特別アナリスト)

24時間・365日体制の速報性に高い評価

「日テレNEWS24」は、主にCS放送(スカパー!)や各地ケーブルテレビなど全国150万世帯で視聴されている24時間ニュース専門チャンネル(早朝4時台には地上波でも放送中)。放送スタジオを日本テレビ報道局フロアに構え、発生したばかりの事件や事故など鮮度の高いニュースを速報で伝えるスピードは高い評価を得ており、自社の公式サイトやデータ放送など情報をマルチに活用している。

情報の有効活用は自社サービスの枠を飛び出し、3月末現在、15の配信先へサービスを展開している。「Yahoo! 動画ニュース」などのポータルサイトや「R25/L25」などの携帯サイト、話題の任天堂「Wii」ニュースチャンネル(テキストと静止画のみ)、JR渋谷駅、新宿駅の構内モニターなど、配信先種別はさまざま、4月からはJR中央線の車内モニターでもサービスが開始された(表)。

ポイントは効率化された配信プロセス

多様なコンテンツ配信体制を支えているのは、「早い段階からマルチ配信を意識して構築した(報道局マルチニュース制作部・宇佐美 理デジタル戦略プロデューサー)という、配信プロセスを効率化したエンコーダーシステム。動画のIN・OUT点を指定し、チェックボックスから配信先を選択するだけでファイル形式変換から指定サーバへのFTPまで自動で行われるため、専門の技術スタッフを置かずに多くの配信先に対応できる。

また、収録を止めることなく次々と届けられる最新ニュースに対応できる「追いかけて編集システム」も搭載。Webなどのニュース配信をも圧倒する速報性を支えている。映像の配信フォーマットはMPEG2、WMV、H.264、3GP、3GP2などさまざまなコーデックに対応可能で、メタデータはNewsMLでの配信も可能となっている。



「早い段階からマルチ配信を意識して構築」と話す報道局マルチニュース制作部の宇佐美 理デジタル戦略プロデューサー

番組構成においても、よりコンパクトにニュースを知ることができる「ヘッドラインニュース」を冒頭に配置。1分間で4本のニュースエッセンスが詰め込まれており、「電車内とか駅構内モニターなどの落ち着いた視聴環境において有効」(宇佐美氏)となっている。このヘッドラインにおいては、それぞれ3本のスーパー表示でも内容を伝えており、音声の聞こえづらい環境においても内容を知ることができるようになっている。

〔表〕「日テレNEWS24」の社外配信先一覧

配信先	区分	備考
Yahoo! 動画ニュース	ポータルサイト	
Biglobeストリーム	ポータルサイト	
アットニフティ	ポータルサイト	
ドガッチ	ポータルサイト	
R25/L25	携帯サイト	
WILLCOM W-ZERO3	携帯サイト	テキスト・静止画のみ
モバゲータウン	携帯サイト	
朝刊・速報メール配信サービス	プッシュ型モバイル配信	サイバードモバイルキャスティング
EZトゥデイズ・ウォッチ・プラス	プッシュ型モバイル配信	au公式サービス
PSPポータルTV	ゲーム機配信	
任天堂Wiiニュースチャンネル	ゲーム機配信	テキスト・静止画のみ
JR東日本 渋谷駅・新宿駅構内	駅構内モニター配信	
横浜高速鉄道 みなとみらい駅構内	駅構内モニター配信	
JR東日本 京浜東北線ニュース配信実験	電車内モニター配信	すでに終了
JR東日本 中央線車内モニター	電車内モニター配信	4/2より開始
iPOD用ビデオポッドキャスティング	ビデオポッドキャスティング	自社サイトより配信



ケータイ配信のイメージ

©NNN

コンテンツは、通常のストレートニュースとヘッドラインのほか、各種インタビューや衝撃シーンの「ノーカット版」、一流企業の社長を招いて戦略を聞く「汐留リーダーズEYE」などさまざまな内容を用意。こうした地上波ニュースとは「ひと味違う」コンテンツ群も、さまざまな配信先から人気を得る要因となっているようだ。

「スピードと量」がサービスの鍵

5年ほど前から同番組を担当する宇佐美氏によると「『ニュースは貴重な自社コンテンツ』という意識から、当初は社外に出すことに抵抗を持つ考えもあったが、今では貴重な放送外収入として評価を得られるようになった」という。日テレ社内での大きな方針転換もマルチ展開成功を

支えたという。コンテンツ提供においては「鮮度」にこだわりつつも、情報のタイムラグを恐れず積極的に最新情報を提供していく姿勢を貫く。「タイムラグを恐れて提供するニュースを取捨選択している」ともうひとつの魅力である『ニュース量』にも影響する。スピードと量を両立させ、かつシンプルな配信体制を取ることがサービスの鍵（宇佐美氏）。放送局によるニュースの販売という新たな放送ビジネスを生み出した「日テレNEWS24」。今後については、駅構内モ



編集作業は報道セクション内のこの部隊が担当。編集の操作は極力シンプルになるように構成

ニターなどデジタルサイネージ市場での伸びに期待しつつも、「全く別の配信先についても対応できる仕組みであり、積極的に売り込みをかけていく」と自信を見せる。街頭大型ビジョンや非サイマル放送実現時のワンセグ用コンテンツなど、可能性は大きく広がっていきそうだ。

「日テレNEWS24」 インターネット/携帯配信システム 設計と特徴 (株)アイ・ビー・イー

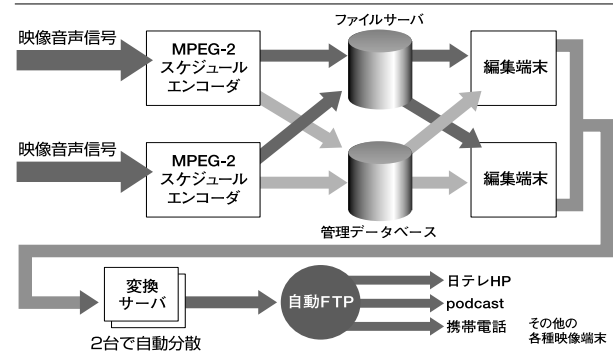
一般的な映像配信システムでは、映像をPCでキャプチャーしてファイル化し、必要な部分を切り出し、個々に手動で変換します。日本テレビ様でもこの方法でインターネット用動画コンテンツを作成されていました。この方法はスタッフにスキルが必要で負担も多く、大量のコンテンツを高速に処理できません。

この状況を踏まえ、次のポイントで設計しました。
極力自動化すること。
ただし、融通が利くように手動の良い点は残すこと。
収録中の「追いかけ編集」でニュースに必要な即時性を実現すること。
特別なスキルが不要で習得の容易なシンプルインターフェイスであること。



報道セクション内にあるサーバシステム

〔図〕「日テレNEWS24」マルチ展開システム概念図



システム構成は次のとおりです〔図〕。

- ・スケジュールエンコーダ：設定した時間に自動収録し、映像のカット点を自動検出し、データベースに登録。
- ・ファイルサーバ：収録映像と、切り抜いた映像、変換された映像を保存。
- ・管理データベース：カット検出のタイムコード情報と、サムネイルを保存。
- ・編集端末：データベースに登録された映像を検索し、編集。収録中の映像も編集でき、MPEGネイティブ編集で高速かつ高画質。
- ・変換サーバ：2台の変換サーバで自動負荷分散を行い高速に配信先に合わせた配信フォーマットに変換。変換後、配信先へ自動ファイル転送。

配信先が数箇所から始まったシステムですが、約1年たって配信先が十数箇所まで増えました。このように設定が柔軟な点も、このシステムの大きな特徴です。

(永井鉄平：システム部第一グループ)